

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(社) くすの木会基本理念に基づき、最後まで「人間らしく生きる」を日々考え、援助し、グループホーム介護理念「入所者も職員も笑顔のある生活」、「パーソンセンタードケアの実践」に心がけています。	○	理念に基づき、一人ひとりの希望や願いを常に意識しながら日々生活できるように努力していく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時に(全体申し送り時)理念を唱和し、理念に基づいた援助ができるよう心がけています。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族に対しては、年度初めの食事会時(5月)に年間事業計画、活動計画、事業実績報告を説明し、理解を得る。 地域の方々には「きぬだより」、「いずみだより」を通してグループホームの活動を知っていただいています。		
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩・買い物・ウォーキングをしている人たちと立ち話しをしたり、庭の花や野菜を頂いたりし、逆にホームで作った料理などを差し上げたりしながら、お付き合いをさせて頂いている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の絹ふれあいの郷のイベント、神社のお祭り、運動会に出かけ、また、絹保育所と年間を通して交流を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に項目ひとつひとつを読み上げてお互いに確認しあい、不明な点は質問して頂き、お互いに納得するように説明している。 入所後も不明な点については、その都度対応するようにしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見は、常に日々の援助の中で聞いて実践している。 不満・苦情は、馴染みの関係を築くことによって利用者の話しやすい職員が聞いて、他の職員と共有し、改善に努めている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回の食事会、面会時などを通じて報告を行っている。暮らしぶりは、写真に残しファイルし、日々の変化がわかるようにしている。健康状態に関しては、具合の悪い時には必ず報告し、相談を行っている。職員の異動に対しては、面会時、食事会時に報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ISOで年1回ご家族様アンケートを実施。結果を分析して、「きぬだより」にて外部・家族に公表し、運営に反映し、改善に取り組んでいる。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時、会議、5分間ノート、日々の会話の中から意見や提案を聞き、日々の援助に生かしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事に対しては、必要とする人員を配置している。緊急時にも、すぐに勤務に入れる職員は確保している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の離職がなく、馴染みの関係が築かれているので、利用者の方も安心した生活を送っている。</p>	
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>I S Oで年4回、施設内で全体研修会を実施し、職員のレベルアップを図っている。(外部講師依頼)活動計画の中に年間を通して研修を入れて、自己啓発に努めている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修生、実習生の受け入れを積極的に行っている。意見交換などを行っている。また、認知症指導者を行っているので、他の施設の方が来苑して、日常生活を見学されていく。お互いの施設の違いなども聞けるので参考になる。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>(社)くすの木会全体の親睦食事会を開催し、日頃交流の少ないセクションの職員と話す機会を設けて、交流が図れるよう取り組んでいる。「ストレス」についての研修会を実施している。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>自分で勉強したいと思っている研修を自ら探し、参加出来るような体制作り心にかけている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学・申し込み時に家族・本人に話を伺い、入所前面接時は、本人・家族の希望・思いを良く聴くようにし、申し込み期間中にも遊びに来て頂けるようにしている。常に関わりを持ちながら、馴染みの関係を築きながら、一人ひとりの思いを聞きだせるようにする。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所申込み時に、担当ケアマネジャーより情報入手、本人の生活歴や今までの支援経過を伺う。入所面接は、管理者とケアマネジャーで行う。本人・家族の思いを大切にし、入所時本人に不安にならないように、本人が使用していたものを持参して頂き、馴染みの生活空間を作って頂く。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の求めていることを第一優先にして援助していく。本人に不安を与えないために、他のサービスの利用は当面考えないでいく。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所することに納得する人ばかりではないが、とりあえず、その日からサービス開始となる。入所間もない時には、本人も不安になってしまうので、出来る限り声かけを多くし、その人の興味を示すものを見つけ、ホームの雰囲気に慣れて頂く。時には、家族の協力を得ながらホームでの生活に慣れて頂くようにする。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	庭の掃き掃除、草花の手入れ、草取り、家事（食事作り、洗濯たたみ、掃除）を行って頂き、今まで本人が行ってきたことをやって頂く。また、様々な所にでかけ、歴史やその時代の暮らしなどを聞き、今昔を共有し、互いに支えあいながら生活をしていく。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	年4回の食事会、施設の行事、面会、サービス担当者会議を通じて、日々の生活を支え、喜びを共にしている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所後、家族関係が疎遠にならないように面会、行事などに参加して頂き、多くの交流を持って頂けるように心がけている。 本人の状態なども常に報告し、受診なども家族に依頼するようにしている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の活動には必ず参加し、ご近所の方々と交流している。美術館、公園、歴史館などへも出掛け、昔使ったものや聞いたものに触れ合う機会を持つようにしている。		
31 ○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お互いの意思の疎通がうまくいかずに言い争いもあるが、認知症なのですぐ忘れてしまうのか何もなかったかのように話をしている。自己主張の強い人が何人かいるので対応は難しくなっているが、本人の気の向くままの生活を支援しています。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用を終了した人は全て死亡なので、その後も家族との関係を保つように努力している。 命日などにお花を届けたり、お参りに行ったり、時々ホームに遊びに来て頂いたりしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の願いや思いシートを作成し、今どんなことを希望しているのかを把握するようにしている。ホームでの生活も長くなっているため認知症も進んだり、ADLの低下も見られるので、徐々に難しくなっているが、家族と相談しながら出来る限り今の生活を支えていきたい。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	皆さん入所が長いので、ここでの生活に慣れてきているので、その場、その時の本人の思いを大切に日々の援助に努め、馴染みの生活が築かれているのではないかと思います。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケアプランを通して、一人ひとりの思いに合わせた生活を援助している。自立支援を目標にし、時間がかかっても自分の出来ることは自分で行えるように努めている。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の望むことをプランに生かし、本人・家族・職員と共に話し合っ、一人ひとりが満足のいく生活を送れるように、プランを作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	認定期間での計画作成を行っているが、状態変化やプランが今の生活にあっていない時には、サービス担当者会議を開き、その都度見直し、現状に合ったプランに変更するようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画記録と活動計画に分けて記入しているので、職員間での情報共有ができています。5分間ミーティングノートで日々の様子が把握でき、見直し検討ができるようになっている。	
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の思いを尊重し、要望に対しては即対応できるように心がけている。	
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の活動に対しては常に参加する。防災訓練などを通して、消防との関わりを持ち、認知症を理解して頂く。小中学生の来苑、ボランティア（フラダンス、コーラス）の方々を通して支援を行っている。パッチワークボランティアの先生が週1回来苑し作品作りを楽しんでいる。	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	同法人の居宅支援と連携は取れているが、他事業所とは申し込みの情報の関わりのみとなっている。	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	老人会に対して、認知症サポーター講座などに出かけて話しをさせて頂いたりしている。また、運営推進委員会などにも参加して頂いている。	



	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(社) くすの木会の嘱託医と連携を図りながら常に健康管理に心がけている。専門外の時には協力病院で受診している。</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>嘱託医に相談している。 主治医がいる方もいるので、その方に対しては専門に受診している。 認知症が進んで行動が不安な時には、専門外来の受診ができるようにしていく。</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>(社) くすの木会の看護職と連携を取り、いつでも相談できるような体制を整えている。</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>担当医、家族との連携を図り、治療が必要でなくなったら早期退院を依頼し、ホームに戻ってこれるようにしている。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>(社) くすの木会全体でターミナルケアマニュアルを作成し、手順に従って実施できるように体制を作っている。</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>日々の健康管理に努め、重度化にならないよう配慮している。 変化のある時には、即かかりつけ医と連携を取り対応できる体制にある。 終末期ケアに対しては、家族と十分に話し合いをして、GHで「できること」「できないこと」を明確にし、判断して頂く。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p><b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>			
<p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>外出時には、おこずかいを本人に渡して、自分の好みのものを買ひ、自らお金を払うように支援している。</p> <p>小銭は、自分で管理している人もいる。</p>	
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天気の良い日は、必ず散歩にでかける。(一人ひとりに合わせた距離を) 食材を買いに行く時は一緒に行き、希望の食べたいものを買ってくる。近くの公園・催し会場など多く出かける。</p>	
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>テレビ、雑誌などで観光地を探し、皆で行ってみたい所、職員が連れて行ってあげたい所を選んで出かけるようにしている。</p> <p>また、年間行事にも計画を入れて外出している。</p>	
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族からの電話や本人の要望時などは、対応している。</p> <p>兄弟から手紙はくるが、あまり返事などは出していない。</p>	
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>いろいろな人が出入りして下さっているので、楽しみにしている。一緒にお茶を飲んだり、食事をしたりして楽しく過ごしている。</p>	
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(社)くすの木会で身体拘束防止マニュアルを作成している。</p> <p>GHでも、身体拘束に関する研修を行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	いつでも自由に入出りできる体制を取っている。	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に、見守りを取り、職員間で声かけをし、安全確認もしている。ホールから全室が見渡せるので見守りしやすい。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物品の保管・管理は、種類によって異なった対応に心がけている。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを作成し、研修・演習を行っている。内服薬は、朝・昼・晩で色分けし、名前を記入して、必ず一人ひとりに手渡し、確認し、服用している。自分で出来ない人に対しては、介助で行っている。	
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	蘇生法など勉強会・訓練を消防署立ち合いで実施しているが、全員がすぐ対応できるか不安は残る。	○ 緊急時には、冷静な気持ちで職員同士声掛けながら対応出来るようにしていく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は、日中・夜間を想定して実施している。災害に対しては、非常食品を準備し、毎月チェックし、備えている。地域の方々には、くすの木会全体で協力が得られるように連携を図っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78 ○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染予防マニュアルがあり、時期になると、くすの木会全体で研修会を行い、各セクション1名が参加し対応を周知する。 インフルエンザは、予防接種を行う。ノロウイルス対策は、一式準備して、担当者を決めて確認している。手洗い、うがいの励行実施		
79 ○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食事を作るときには、必ず手洗いを行う。衛生マニュアルを作成し、それに従って調理に当たっている。 食材は、あまり買い置きはせず、常に新鮮なものを使用している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> <b>(1)居心地のよい環境づくり</b>			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節に合わせて、草花を植え、家庭と同じような玄関回りにしている。 表札も郵便受けの所に貼るなどして、家庭と同じような感じにしている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には植木鉢を置き、入った途端安心する空間を作る。リビングには陽射しが入り、快適な生活が送れるようにしている。トイレはエアコンがついているので、温度差がある時には、すぐ対応することが可能。壁には、季節に応じた絵・色紙が飾っており、心が和むようにしている。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を数ヶ所に置いて、目隠しになる部分があり、一人ひとりが思い思いの場所で気の合った仲間と話をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家で使っている家具などを持ち込んで頂いている。各部屋のボードには、自分の作った作品や家族からの手紙などを貼り、見て楽しんでいます。</p>		
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>常に換気に心がけている。暖かい日には、窓を開け、空気を入れ替えをする。各部屋に鉢植えを置いて、乾燥を防いでいる。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>床は、バリアフリーにし、低床ベッドにして、自分で起きられるようにしている。入浴も一人ひとりに合った対応に心がけている。高低があるので、手すりなどせを用意している。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>各部屋は、壁紙・カーテンを別にし、混乱しないようにしている。時々、部屋が判らなくなってしまう人には、小さな目印をつけて対応している。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>ベランダでは、お布団を干し、安眠に心がけている。外のベンチでは、散歩後日光浴をしたり、ティタイムを楽しんだり、他の利用者との交流の場となっている。</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

認知症であっても、あたりまえ（普通）の生活にこだわり、積極的に外に出かけて、その場で出会った方々との触れ合いを大切に日々生活しています。  
(地域の行事、日帰り旅行、美術館、神社、歴史博物館、ディズニーシー、映画館、外食など)

年間を通して保育所との交流を行い、先生・園児との交流を図って、園児たちから元気パワーを頂いています。

グループホームの生活の様子を知って頂くために、地域全戸（約1,430戸）に「いずみだより」を年4回、回覧させて頂いております。

入所者が毎日仲良く生活し、「今日は楽しかった」と言う声を聞くために、日々努力しています。一人ひとりが自立した生活を一日でも長く続けられるように支援し、笑顔のあるホームです。今年力を入れている事は、ボランティアの先生の力を借り、週1回パッチワークを行い作品作りをしています。女性の方は、昔お裁縫をしたので針を使うのは上手で昔の話をしながら手を動かしています。作品をお部屋に飾っておくと家族の方がほしがり持って行かれたりしています。出来ることの再発見です。